項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	のどかな環境であることから、利用者が自然のなかでゆったりとすごして頂けるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を誰もが見える場所に貼っており、毎朝のミーティング時朗読により周知し、実践に向けた取り組みを行っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	開設してから年数が浅いことから、地域で開催される行事等に進んで参加し、多くの方に理解していただけるよう取り組んでいる。又、家族については、日頃から連絡を取り合うなど、密な関係構築に努め、自分たちの理念を実践で理解して頂けるよう励んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩の際、近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の行事に積極的に参加することで、気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町主催の行事、町内会のお祭り参加、散歩等の際の挨拶、町内小学校行事(運動会・学習発表会等)等、地域との交流に進んで参加するように努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在実施していませんが、何か役立つことがないか検討している。		認知症サポート養成講座の開催を検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>評価結果を元に、改善すべき点は速やかに具体的な改善策を考え取り組んでいきます。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待の研修の受講者が少ないため、積極的に受講させたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が気軽に職員に意見や不満、苦情が言える関係や雰囲気作りを行っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の現状を知っていただくためにも、日頃の状況や病院受診の結果などをその都度報告をしている。毎月の利用領収書送付時に、金銭管理台帳の写しと領収書(レシート含)を送付している。		家族が楽しみに待つようなホーム便りの工夫と回数について検討する。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話で個々に意見や不満等を聞ける状態ではあるが、積極的に聞く機会を設けていない。		運営推進会議のみならず、家族参加の行事を検討し、その際に意見や不満等を聞く機会を設けたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や朝のミーティングの場で意見や提案を受け、検討し反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な出勤や必要な時間帯に職員が確保出来るように、日頃から職員に理解を求めている。必要となった時には出勤できるような体制になっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や退職については、利用者のダメージが大きいため、十分に注意をしている。又、新しい職員を採用した場合は、顔なじみになるまで日勤中心とした勤務体制を整えて行く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要と思われる外部研修には、業務として参加させ、内部研修会を実施している。</p>	<p>より多くの外部研修への参加と、内部研修の充実を図りたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道認知症高齢者グループホーム協議会、南北海道連絡協議会に入会しているが、研修会や交流会の機会が少ない。近隣の同業者とは、電話連絡や相互に訪問して情報交換をしている。</p>	<p>北海道認知症グループホーム協議会、南北海道連絡協議会の研修や交流会も機会があったら参加したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務の無理・無駄をなくすような勤務体制を整えている。相談や悩み事を打ち明けることが出来るような雰囲気作りに勤めています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>特に取り組みは行っていない。</p>	<p>上級資格取得に向けた支援を検討している。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に本人や家族と面談し、話を聞きアセスメントを行っている。入所前に本人や家族に施設見学をしていただく等して不安の軽減を図っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に家族とも面談し、お話を聞く機会を設けたり、いつでも電話等で相談できるような体制をとっている。</p>	<p>入所後は、家族が不安を感じないよう、電話連絡などでフォローに努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いや状況を確認し、早急な対応が必要であれば、可能な限り他のサービス事業所と連携をとって対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に見学に来て頂くことで、ホームの雰囲気を知って頂き、見学に来られないときは、電話連絡等で何でも話すことが出来るような雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者との会話から学ぶことも多く、介護する側、される側という関係ではなく、ホームにおいて共に生活をし、暮らしを支えることを実践している。歌や踊りの好きな方と一緒に歌ったり、踊ったりと、その時々を大切にしている。職員が利用者と共に感することにより、泣いたり、笑ったりと、感情豊かに過せるようにしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	訪問された家族には利用者の近況報告をしている、訪問できない家族へは都度電話にて連絡報告している。訪問時や電話のときには、本人の昔の話しや、楽しかったことや辛かったことをありのまま受け入れ、家族と共に支える関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	時より訪問し、本人とお話をしていて良い関係が出来ている。遠方に住んでいて訪問できない家族からは時々荷物が送られ、届いた報告の時には本人と電話で会話していただいている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行事参加で外出した時、知人と話をしたり、近所のなじみの方が来苑してくれたりする環境を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常の利用者同士の会話や交流から孤立している利用者がいないか、関係が悪くならないか等の把握に努めている。又、孤立しそうな利用者や関係が悪くなりそうな時は、職員が速やかに対応している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も家族が来所してくれたり、家族の相談に対して助言などを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前にアセスメントを行い、本人家族の希望や意向を聞き、ケア会議を開催して本人家族が安心して生活が出来るように努めながら、日々の生活は全てケース記録に残している。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に家族から話を聞き取り、日々本人との会話の中からも聞き把握に努めている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々心身の状態を観察し、把握しながら総合的なケアを行っている。普段との違いを感じた場合は職員と話し合い、身体状況に異変を感じた場合は、主治医と連絡を取り、必要に応じて受診をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成にあたり、介護職員と計画作成担当者が家族の意向を十分理解し、よりよいサービスが出来るように、意見やアイデアを出し合い、ケアプランに反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のケア会議で、全利用者の現状確認をし、本人・家族が安心して生活して行くために、見直しの有無の必要性を検討している。常に普段の状況等を介護日誌や連絡帳に記載し、職員が情報を共有し、本人や家族の要望を聞き、見直しが必要な場合は新たな介護サービス計画を作成する。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、生活シート、を作成し、個々の行動や変化、気づいた事は全て記録している。記録に記載した情報を共有しながら実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	定期的な病院受診や本人の希望に応じてリハビリ受診や買物介助等の柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア慰問による歌や舞踊や消防の避難訓練等各機関の協力を受けている。町内行事参加の写真やパッチワーククラブ寄贈の壁掛けを展示している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特に他のサービスの活動支援が必要とされる利用者がいないため、支援等は行っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は、本人や家族の意向もなく協働していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望を受け定期的受診を行っている。退院時にはかかりつけ医と連絡を取り、直接面談し、状況や注意事項を確認している。又、定期的な訪問歯科診療を受けており、適切な医療を受けられるように支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関する専門医はいないが、定期受診時に認知症状について報告をし、少しでも認知症の進行を防ぐことが出来るような診療をうけられるように支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	小さな町の病院であるため、顔なじみの看護師が多いことから、気軽に相談できる状態であることから、相談や助言を頂きながら日常の健康管理を支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族の希望を受け定期的受診を行っている。退院時にはかかりつけ医と連絡を取り、直接面談し、状況や注意事項を確認している。又、定期的な訪問歯科診療を受けており、適切な医療を受けられるように支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時点で重度化や終末期について話し、本人や家族の意向を確認している。今のところ対象者はいないが、職員で終末期に向けての受け入れ方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今のところ対象者はいないが、今後対象者が出た場合は、職員全員が同じ意識を持って支援して行くように話し合いをしている。月1回、病院長が主となって開催しているケア会議に参加し、かかりつけ医師や看護師と連絡を密にして支援してゆくようになっている。		今後対象者があった場合は、家族の意向を確認してうえで、包括支援センターや協力病院と話し合い、ターミナルケアに向けた方針の共有の実現に向けて取り組んで行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所の際には、事前に見学して頂いたり、何度も電話での情報交換をする等して、お互いに話しやすい関係を作る等して、心のダメージを防ぐよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを傷つけないよう、言葉のかけ方、遣い方、接し方、また個人情報の取り扱いや記録等には十分注意をしている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活の中で本人の出来る部分を確認して、出来ることを本人に決定して頂き、納得しながら暮らせるように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは、ある程度決まってはいるが、天気のよい日は散歩に出かける等、一人ひとりの個性や体調に合わせて臨機応変に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で判断して出来る方以外は個々に合わせて対応し、利用者一人ひとりに合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。理美容は、個人が望むところがあれば訪問していただいたり、その他の方は、当苑でお願いしてある理容院の訪問サービスを利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下ごしらえ(じゃがいも、にんじん等の皮むき)や、テーブル拭きや配膳、食器洗いや食器拭きを職員と一緒にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在お酒を飲んでいる方はいません。タバコは火災予防のために決まった場所で行っていただいている。おやつは本人の好みを把握したうえで、苑の判断で決めた物を食べていただいている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄は、毎日個々の生活シートに記録し、職員が排泄パターンを把握している。排泄の失敗やおムツの使用を減らし、自尊心を傷つけず気持ちよく生活が出来るように誘導をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週4回午後から行っており、タイミングが合わない場合は午前に行うこともある。入浴時間の希望があった場合は本人に合わせ、入浴したくない場合は翌日に入浴していただく等、本人の希望を尊重し、楽しく入浴が出来るように支援している。又、隣の松前温泉を利用することもある。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の睡眠パターンを把握し、職員で共有している。眠れない方には無理に強制せず、ホールで職員とすごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理の下ごしらえ、食器洗いや食器拭き、拭き掃除、畑作りなど、職員と会話をしながら楽しく行っていただいている。		もっと出来る事がないか、今後検討して行きたいと思います。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望や能力に応じて、お金を所持し、使うことが出来るように支援している。		買物デイを設定し、自分の好きな物を購入したり、外食をする等、楽しみが持てるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は職員が付き添い散歩をしている。買い物は本人の要望により、買物介助をしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	イベント等がある場合は、職員が付き添い、他の利用者と一緒に外出しているが個別ではない。家族とともに出かけられる機会をつくっていない。		入所者や家族と一緒に外出をして、自分の好きな物を注文しての夕食をしたいと思っている。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入所者の中には、知人から毎日電話をしてくれる方がいる。その他の方は、本人から希望があった場合都度対応している。家族から荷物が届いた時に、本人とお話をしていただいている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	夜9時以降深夜の面会以外は自由になっている。来客には気軽に挨拶を交わしたり、家族の方には近況報告をし、自室やホールでお話ができるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や日々のミーティングで、身体的はもちろん言動的にも十分注意をするように話し合い、身体拘束の意識を高める努力をしています。現在身体拘束はありません。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間(午後10時から朝6時頃まで)は防犯上玄関の鍵をかけているが、日中は自由に出入りが出来るように鍵はかけていない。自室は何かあった場合に直ぐ対応できるように全室鍵はかけていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず、職員は利用者のプライバシーに配慮しながら、入居者の所存や様子を把握し、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	私物で危険を生じる物は、危険防止のため苑の方で管理し、使用の際は職員が見守りを行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤嚥、窒息に至らないように、食事の際には同席して見守っている。火災防止のため、喫煙される方には決まった場所を利用していただき、後始末の確認をしています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生マニュアルを作成し、全ての職員が適切な対応ができるよう周知されているが、必ずしも全職員が対応できるレベルにまで到達されているとは言いがたいと思われる。事故発生は管理者へ報告し、様子観察や受診をしている。応急手当の訓練は行っていません。		機会があれば、消防署主催の講習を受講させたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者が中心となり、火災発生時等の各役割を決めていて夜間も適切な対応が出来るような非常体制をとっている。誘導方法、消火訓練、火災報知機の点検などを行い日々取り組んでいる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	新規入居の際に、リスクは生活の至る所に潜在していることを説明している。事故はゼロとは言いきれないが、最小限の被害に留めるように細心の注意を図っていること説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃より、体調の変化や異変の観察を行い、様子を詳しく業務日誌や申し送りへの記載と口頭でも、管理者、職員に伝達して情報を共有している。又、ナースコールを設置し、自室での異変にも対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院で処方された服薬説明書は、ファイルを作成し職員が何時でも見ることが出来るようにしています。毎日の薬は誰が服薬介助を行ったか確認が出来るように、服薬介助記録を作成している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員が排便状況を確認できるようにしている。朝食時は牛乳、昼食時青汁をつけているが、服薬でも数日排便がない場合は、食物繊維の多い食材を提供し排便を促すように取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、一人ひとりの能力に応じて見守り、声掛け、介助しながら口腔ケアを行っている。飲み込み悪化、むせの予防に、日課として口腔体操を行っている。また平成21年12月には、渡島保険福祉事務所の協力により口腔ケア研修会を行った。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を毎日記録している。一人ひとりの健康状態に合わせて支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「厚労省マニュアルQ&A」を参考にし、職員会議等で検討して予防に努めている。職員・入居者はもちろん、来苑者にも手、喉の消毒に協力していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板などは、その都度、塩素系漂白剤で消毒している。食材は新鮮さを保つため週2～3回の買出しをしている。不足分は必要に応じて購入し、消費期限を厳守している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	苑の前には畑と四季の花が植えられている。ベンチを置き、誰でも気軽に利用できるように設置して生活垣間見ることが出来るようになっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールを中心として居室が配置されており、ホールにソファとテレビを置き、入居者が家庭的な雰囲気をつくつるようになっている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	誰でも自由に利用できる和室がある。ホールのソファは自分の気の合う人と並んで過ごせるように配慮している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居以前から利用していたものを置き、本人が安心して生活出来るようにしている。ホールには食卓テーブルやソファが配置され、くつろげるような雰囲気の空間になっている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い時は、窓を開けて空気の入替えをしている。冬期間の室温はある程度の温度を保つようにしているが、その日の状況に応じて調整を行い、加湿器を設置するなどして、心地良く過ごせるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホール、トイレ、浴室等には手すりが設置してあり、出来るだけ自立した生活が送れるようになっている。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>誰でもわかるように、戸にトイレ・浴室と書いてあり、自室には分かりやすく大きな文字で名前を書いた表札を掛けている。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホームの前には畑や花が植えられていて、成長を楽しむことが出来るようになっている。</p>		

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	2
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	3
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	2
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	1
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	2
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	1
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	1
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	1

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	3
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	1

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者に出来る範囲で様々な作業をして頂くことで、自分の役割を持つことが出来、共に何かを一緒に行うことで自信や生きがい等が持てるような支援を継続してゆきます。日常の接し方や介助の仕方にも十分注意しており、入居者がのんびりと安心して生活できるように尊厳をもって支援しています。